扇小だより
考える子　思いやりのある子　強い子

令和６年度　第１７号
開校50年目　　７月 12 日 児童数753名
入 間 市 立 扇 小 学 校

道徳で自走する子を育てる

学校長　村越　新

道徳が教科となって５年がたちました。道徳教育は、**自己の生き方**を考え，**主体的な判断**の下に行動し、自立した一人の人間として**他者と共によりよく生きる**ための基盤となる道徳性を養うことを目標とする教育活動です。道徳教育は、社会の変化に対応しその形成者として生きていくことができる人間を育成する上で重要な役割をもっています。

本校が目指す「自走する子」を育成する上でも、週に一度の道徳の授業、教育活動全体の中で行われる道徳教育はとても重要だと考えます。他の教科同様に「学び合う」時間も大切にして学習を進めています。今回は、最近の授業での子供の様子をいくつか紹介させていただきます。

一年生の授業。一本橋を渡ってくるウサギやキツネ、タヌキが怖がって引き返すのをおもしろがっているオオカミがいます。役割演技を通して、子供たちから登場人物の心情が分かってきます。「オオカミはいじわるを楽しんでいる」。「ウサギたちは、悔しくて許せないけど、オオカミはこわい」と。このオオカミは、クマに優しくしてもらったことをきっかけに、ウサギにも優しくします。この時のオオカミの気持ちについて学び合いました。すると「いじわるをするよりも、優しくしてあげた方が気持ちが良い」「良いことをした方が、気分が良い」ということに気づいていきます。

二年生の授業。ミニトマトを世話する主人公が、母親に話しかけられます。「ミニトマトとあなたは似ている」と。その時主人公がどんなことを考えたかを、学び合いました。「トマトと同じ気持ちだ」「ミニトマトと友達」「大切に育てよう」「自分がかぜを引いたらミニトマトがかわいそう」「わたしも元気でいないとミニトマトも元気でいられない」などの意見が交わされました。生命の尊さや責任を持って物事をやり遂げる大切さについて学んでいる様子がよく分かりました。

三年生の授業。公園で、一緒にいた友達が乗ってはいけないＳＬの上に乗ります。得意げなその友達に、注意できない主人公。その心情を学び合いました。「勇気がない」「自分も怒られるかもしれない」「注意するとケンカになるかも」「友達がいなくなるかも」「友達が嫌な気持ちになる」「あとで、嫌なことをされるかも」など。学び合いによって、正しいことを実行する勇気の大切さに気づいていきます。

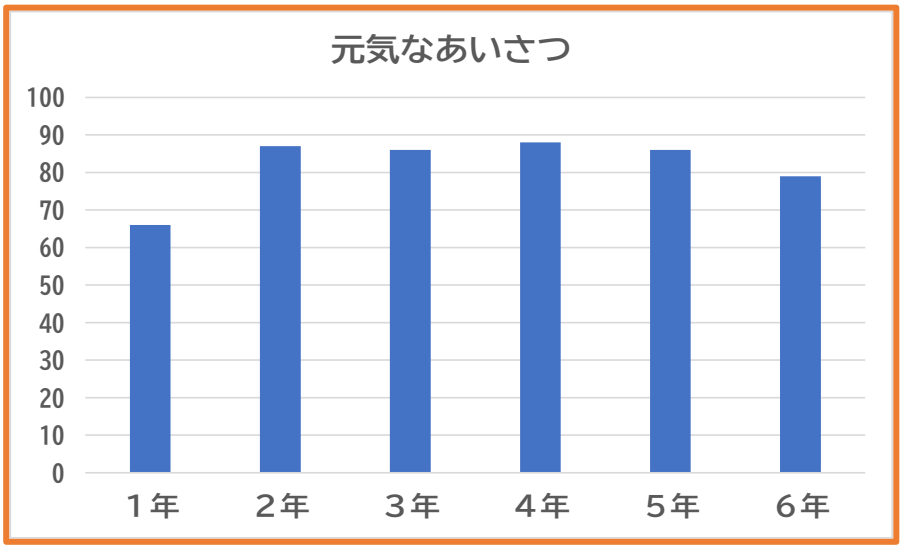
四年生の授業。クラスに「サル」に似ていると**からかわれている子**がいて、どうしたらいいか**悩んでいる**主人公の心情を学び合いました。「注意したら巻き込まれるかも」「不登校になったらどうしよう」「友達の気持ちになって考えないと」「注意したって、聞いてくれないかもしれないし」「いじめになる前に先生に言おう」「注意して、何かされてもこわくない」「傷つく子を見るのは嫌だ」などなど活発な意見が交わされました。**よく考え**て、**正しい行動**を取る大事さについて考えていきました。

五年生の授業。主人公は算数のテストで思わず友達の**答案を見てしまい**ます。結果は満点。この時の主人公の**満足度**を学び合いました。多くの子が「１％」や「２％」です。自力でやったのではないからです。しかし満足する要素も発言されていました。「わざと見たわけではない」「ほとんどが自力でやった」「母は喜んでくれる」「誰も知らないこと」。学び合っている最中にも PC 上で示された満足度を変える子がいましたが、当然満足度はどんどん**下がって**いき「０％」にする子が増えていきました。「**二度とやらない**」という主人公の気持ちに共感したようです。

六年生の授業。**きまりとマナー**を学ぶ中で「電車内でお年寄りに席を譲ることをきまりにしよう」という提案がありました。賛成意見の中には「自分も将来譲って欲しい」「若者が独占していて迷惑」などがありました。反対意見の中には「きまりだと譲っても譲られてもても気持ちがよくない」「厳しすぎ。体調が悪い時だってある」などがありました。学び合いが進むうちに「**人として**当然やるべきこと」や「人の**権利**」のようなことにまで深まっていきました。

六月の生活目標・達成

六月の生活目標は「**元気なあいさつ・廊下は黙って右側歩行**」でした。六月末に調査（自己評価「よくできている」と回答した子の割合）の結果が下のグラフです。

８１％の扇っ子が「元気なあいさつをしている」と自信を持って回答してくれました。

このような生活の様子についても道徳教育の充実によって、よりよい状態にしていきたいと考えています。